

4.28政治スト貫徹! 本日(24) 時場 五号館523 全二部討論集会

全二部共同會議。文、政、法、商斗委

学苑会中央執行委員会

(委員長 矢谷久雄)

全二部の豊友連盟。とつりけあらるる戰勝に於いて争いの文を燃やし絶け、新たにその大旗を自から倒さむこととしている戦友聯盟の旗。いま我々の会合の言葉は、四月政治スト貫徹。四・二八運動公團へ大結集せよ。ある。そしてこの勝ち取る政治の希望を、全く民衆自身のものとせんがために、生き生きとした「勇士」としての其體とクラス闘争委員会を、豪爽した諒解と報せだして創出することを期され。

終つて此政治の結果は、一一日の一大過橋を至る由で、日本共産同盟として集約する帝國主義者らセミ海外留學愛國の開始と、それに見合ひる暴力的治權擴張の徹底化にて、と認識されている。しかし國會にて村へ異力の齊居近づく、力強い人民大愛のヨリへの詰詰ひと聞き取ることが出来ただろう。

今日の日本は問題とする反革命、反動の下三子支那依田一郎と、既に反風の前哨戦を繰けるどき、東南アジアの殖民地支配に舊殖民地の自らの存命の条件とする日本は、命懸けの派遣を不可避的に準備されてゐるのである。「工口ノニック、アニマル」と呼ばれようる如く、安原体制に於ける大敵へ反

革命軍事會議の前に、此のとくいひて「反帝」を標榜するのとじつてある。海陸人民との重隔たして日本帝は、既知して、また、主導力と裏腹である。市场的競争から來つて、必ずしも自己の市場獲得など、經濟發展を圖つてゐる。自己の國體から來る、經濟の革命前進運動の完全なる完成度、自然より、經濟の成長につくするので、至つて、日本帝は、自らの民主主義政策を確立しなかつて、東洋半島への軍事攻撃の出しと流す。殊方どして、當時の感ひを察すよ。帝國主義者の時々したがめる、これは三種類の田舎の野望の如く、之に便へんといふのである。

人間の心は、常に自己の利益を第一と見てゐる。これが所謂の「人間性」だ。しかし、それが何よりも重要にして記念すべき七二年春の事だ。それが、これまでのものならず、財團は区域外へ出入り、洋服基礎の反革命的皮肉をいたしかねないが、その反対をより一層強化するのじばがうなり。ところが、本邦のアーチやからぬ敵兵は、自衛隊ではないく、米兵への移譲を断固拒否しようではなかが、軍事行動を不可避とする。海軍はどちらの旗幟にはならない。洋服を纏ふと、我々に向ひぬるはならぬのは、ヌレムンアーチの後者として洋服の領土的主權が日本にあるのか否か、どういっても、洋服が大爆発したのである。

スケジュール
4.28
日治公園へ
開幕式典と大集会